

旧吉野川河口堰

旧吉野川では、河口付近に河川を横断する堰を設置しています。

川を流れる水の量の変化や潮の干満に応じて、堰のゲート进行操作することで、洪水から地域の人々を守るとともに、海水を遡上させないようにして塩害を防いでいます。

河口堰で貯めた水は、水道用水、工業用水、農業用水として使われます。

旧吉野川河口堰では、2種類の操作を行っています。

・3湛2落操作(さんたんにくらそうさ)

農業用水の必要な時期には、3湛2落という特徴的な方法で操作しています。これは、5日間を1サイクルとして、そのうち3日間はゲートを閉めて水を貯め、取水の安定を図り、残りの2日間は、引き潮に合わせてゲートを開けて上流の水を下流に流し、堰上流の低い土地の排水を行うという操作です。

・干満操作(かんまんそうさ)

農業用水の取水が少ない時期は、引き潮に合わせてゲートを開け、上流の水を下流に流します。



旧吉野川河口堰

目 的	洪水調節、水道用水、工業用水、河川維持用水
堤 長	192.3m
竣工年度	昭和50年度
管 理 者	水資源機構